



公演 「サルブリ」 に向けて

11月5日、青山「草月会館」

地方の巫儀の際に用いられたリズムおよび、音楽の名称です。このリズムや音楽で踊る踊りを一般にサルブリチュムとよびます。この踊りは、巫女が巫儀を行う際に踊った踊りや、見物人たちが興に乗って踊った踊りなどがもともとなっていて、巫女自身のほか音楽や舞踊の専門家たちが、これに芸術性を加味して踊ったものが発展して今日の形になったと考えられています。

今秋、11月5日、青山の草月会館において「サルブリ」の公演が行われます。それに向け、現在、韓国と日本を何度も行き来しながら準備を進められている趙寿玉先生に、お話を伺いました。

まず、今回の公演タイトルである「サルブリ」についてお聞かせ下さい。

趙寿玉 サルブリというのは全羅道



「サル」は漢字で「煞」と書き「煞」は持つて生まれた悪い運勢のことで「ブリ」とは「振りほどく」という意味です。そのまま訳すと厄払いという事になります。それをもっと個々人に近づけて言うと、例えば、韓国でいう「恨」

のような、言葉では表現しきれない複雑多岐な感情が胸にわだかまっていくときに、それを振りほどいて、魂を解放する、そんな意味合いも含んでいます。

此の度の公演では、韓国の素晴らしい伝統音楽と舞そのものが「サルブリ」になると考えています。

— そのような公演をしようと思われたのは、どうですか。

趙 皆さん、すでにご存知でしょうが、今年、かつて韓国が日本に併合された年から、百年目にあたります。どちらの国にとっても、大きな意味のある、節目の年です。朝鮮半島と日本は、古くからいろいろな意味で深く関わりを持ち続けてきましたが、「近くて遠い」とも言われ続けています。昨今は韓流ブームなどで、近しきが増してきた一方、まだまだ解決できてないことも少なくありません。

伽倻琴奏者の張理香さんと、在日という立場の人間として、この節目の年に、何かやらなきゃと思っていました。

本国に於いては日本に併合されていた時期の文化抹殺政策や、その後の韓国戦争により伝統文化の世界に於いても受難の時期が続きました。過去の過ちを二度と起こしてはならず、その為にはお互いを知り、

敬い合える事が大事なのでは、ないでしょうか。

この度の会は過去に多くの無念の思いで命を絶たれた方々の靈魂や、又その日会場に来て下さった方々の魂を揺さぶり、癒してくれるものと信じています。

— どのような内容の公演になるのでしょうか？

趙 今回は、韓国でも、これだけの先生方が一同に介して演奏する機会は滅多にないと思われるぐらいの、素晴らしい先生方に来て頂きます。今回、音楽監修もお願いする、女琴の李世煥先生をはじめ、長鼓では韓国で第一人者の金清満先生、私のシナイウイ公演の時に来て頂いたピリの韓世統先生、テグムの元長賢先生、牙笏の李太白先生と、本当に贅沢な顔ぶれです。

具体的な内容はまだ検討中ですが、とにかくシンプルに、皆さんに韓国の重鎮達による伝統音楽の素晴らしさを味わっていただける会にしたいと考えています。このような伝統は過酷な時代を先人達が築き上げた世に潜むようにしながらもしぶとく守り伝えてきたものです。先人の

方々はそのような環境にあっても更に創造を加え自らの技術を磨いて来られました。そのような先輩方の経てきた過程や継承されてきた内容を知れば知るほどその素晴らしい驚き、敬意の念を抱かすにはいられません。

張理香さんは、先生方と一緒に演奏するほか、恩師である故、成鍾高先生、池英熙先生ご夫妻に捧げるオマージュとして、「ヌンムリ、チンジュラミョン（涙が真珠なら）」という曲と民謡とを構成して演奏します。私たちの中ではこれもまた「サルブリ」なのです。



伝統楽器の可能性に挑戦

さらに幅広い音楽を…ピリ演奏家・李榮勲先生



イ・ヨンファン 1980年ソウル生まれ。ソウル国家芸術高校、韓国中央大学校韓国伝統音楽学科卒業。元韓国国立国家管弦楽団団員。伝統文化民俗大会ピリで國務總理賞受賞

かり習っておきたいと思うようになり、しばらく日本に住むことにしました。韓国では北朝鮮の先生に習うことは難しいですからね。

はじめは日本語学校に通いながら楽器を習うだけで、演奏活動はし

今や趙寿玉先生の公演には欠かせない存在となっている、ピリ演奏家の李榮勲先生。少年のような容姿ながら、韓国伝統音楽に関しては、たいへん豊富な経験と実力の持ち主です。趙寿玉先生との活動のみならず、チュムパンの会では、初級者向けのチャング教室のご指導もしてくださるなど、大活躍のヨンファン先生にお話をうかがいました。

まず、なぜ日本で活動しようと思われたのでしょうか。

日本に来たもともとの目的は、テレビジョンを基に北朝鮮で作られたチャンセナブを習うことでした。北朝鮮の音楽や舞踊を専門とした、在日コリアンの劇団である金剛山歌劇団の公演を韓国で見たのをきっかけに、5年位前から何度か日本に来て習っていました。そのうちに年をとるまえにしっ

ていなかったのですが、以前から知り合っていたBBD(東京・大久保にある韓国伝統楽器店)の方の紹介で、ワークシヨップの講師をしたり、演奏をしたりするようになりまして。そうしたなかで朴根鐘先生と知り合い、趙寿玉先生とのお仕事に参加することになったのです。

幼い頃から韓国の伝統音楽を学ばれていたそうですが、そもそもどのきっかけは何だったのでしょうか。

オモニが韓国の伝統音楽が好きだった影響で、民謡を習いはじめました。最初は遊びと同じ気分でした。小学校1、2年の頃からはソド民謡とサムルノリを習い、カヤグムも習いました。カヤグムを学ぶために、京畿道からソウルの鐘路

に住む先生の所まで通ったこともあり。その先生はバンソリも教えていらしたのですが、声変わりの前だったため声が出ませんでした。しかし、ご高年齢並唱を習いました。しかし、ご高年齢だった先生が亡くなられたこともあって一年ほどやめてしまいました。その後、ソウル国家芸術高校のサムルノリ学科に入学し、中央大学の韓国音楽学科へと進みました。

ピリは高校時代に習われたそうですね。

そうですね。サムルノリは学校以外の所でずっとやっていたので、高校では違うものを習おうと考えていました。あるとき、学校の廊下で先輩が吹くピリの音を耳にし、「ああ、いいなあ」と思いピリを専攻することにしました。楽器代が安くすむという理由もありましたが(笑)。

大学生だったときに軍隊に行かれたとか。

2年間、大統領のための軍所属の楽団にいました。そこに入るためにも実技試験があって、僕はサムルノリで試験を受けて入り、あとでテレビジョンに変更しました。基本的には9時から5時まで練習や公演をする公務員で、来賓を迎えるために空港で演奏したり、ワールドカップでは、韓国の試合があるときに競技場で演奏したりもしました。

軍隊に入ったばかりにも1年間、演奏家として活動もしていたので、大学には7年間在籍しました。卒業後は国立国家管弦楽団に入り、その一年後に日本に来ました。

現在は日本で作曲の勉強をされているのですよね。

音楽の専門学校で、クラシックの理論や作曲を勉強しています。テレビジョンの改良楽器を習いたいと思った本来の目的は、ソリストとして活動の場を広げたいと思ったからです。また、伝統楽器は伝統音楽を演奏するのに一番適しているのは確かですが、それにとまらず、さらに幅広いジャンルの音楽に挑戦したいとも思っています。ひとつの楽器をやればいいのかという韓国の先生もいるのですが、今はひとりで複数の楽器をこなす時代だと僕は思っています。

チュムパンの会では、初級クラス生徒のためにチャングのご指導もしていたのですが、教えるのは大変でしたか。

楽しかったですよ。もともとは教えるのは好きじゃなかったのですが、教えることで自分が得るものも多いと気づいてからは楽しくなりました。私はいつからか「仕事だ」と思いながら楽器の演奏するようになっていました。でも生徒さんたちは好きでやっているんですよ。そんな生徒さんの姿から、楽器を習いたての頃を思い出すようにもなりました。チュムパンの会でのチャング教室は二週間に一回だったし、生徒さんたちも家でなかなか練習をすることができなかつたように、毎回毎回、最初から始める感じでしたが、皆さんは好きでやっているのだから、楽しくやって欲しいと思います。できれば、また教室をやりたいと思っています。

(聞き手・柏木 美奈)

「LATV」ファン・ジニ」放送開始記念イベント 韓国舞踊鑑賞会に参加して

金 玖



る、観客約150名ほどが集まり、ドラマ「ファンジニ」の試写会に引続き剣舞、立舞、鳥打令、男舞、杖鼓舞、ソルチャングそして三面太鼓を披露した。今回の公演の特筆すべき点は、何と云っても映像の世界から現れ出たような先生の立舞だろう。妓生風の髪型に艶やかなチヨゴリを身にまとい、二畳ほどの空間での粋な舞はまさしくファンジニを彷彿とさせ会場を魅了した。

11月5日朝、武蔵小杉駅から会場である川崎市国際交流センターに向かう。その会場は、閑静な住宅街を抜けると唐突に現れる広々とした空間に佇んでいた。外国人として日本に住む私としては、国際交流の場が都市からやや外れた場所にあり残念な気がした。しかし結果的にこの日の公演は、まさに韓国の文化を日本の皆さんに紹介する素晴らしい交流の場となった。

この日の公演のテーマは「ファンジニ」(黄真伊、朝鮮時代の中宗期に実在したとされる著名な妓生、女流詩人)。黄真伊は踊りの名手だったため、ドラマでは数々の韓国舞踊が登場し、華やかな民族衣装も見所のひとつとなっています。私たちの演目はそういつたドラマの趣向と合致させたものとなった。

会場となったホールには韓国の文化に少なからず興味をもっていていると思われ

初めての榎祭り

渡辺 由里

10月25日(日)、榎町地域センター祭りが開催されました。全館で行う催し物には、過去にチユムパンの先輩方も出演し、舞踊を披露したことがあると聞きました。

7月中旬、榎祭りに出ませんかと辛鋸玉先生にメールをいただきました。とても驚き、本当に私で良いのか何度もメールを読み返しました。そして貴重な経験をさせてもらえることに感謝し、ぜひ踊らせてくださいとお願いました。

演目は扇の舞、メンバーは柏木美奈さん、康明心さんです。先輩方は何度か舞台を経験されていて大変心強く、また迷惑をかけてはいけないというプレッシャーもありました。練習の時には、自分だけ動きの合っていない部分がたくさんあり、本番が迫るにつれて焦りが出てきました。

特に、大変だったのは顔の表情です。趙寿玉先生に、怖い顔になっていると注意を受けました。笑顔を作ろうと意識すると、顔以外の全身が緩んでしまうのです。このままでは悲惨な本番を迎えてしまおうと、ますます焦りが増えました。

しかし、趙寿玉先生が踊りやすいようにアレンジし指導してくださり、プレッシャーに負けないようにお言葉もいただきました。また、辛鋸玉先生やチユムパンの先輩方にも踊りの指導をいただき、チユムパンの看板を背負って踊るのだということ

を改めて認識し本番に臨みました。そして、ついに本番です。会場の外で順番を待つ間は、趙寿玉先生や先輩方の笑顔を見ていたため落ち着いていました。しかし、会場に入るように指示があると一気に緊張が高まり、その状態のまま踊り始めました。

踊り始めてすぐに、先生が叩くチャングの音と声が開こえてきました。その瞬間に、いろんなことが頭の中を巡ったのだと思います。緊張していましたが、練習の際に注意を受けた部分を思い出すことができ、笑顔にならなくとも、せめて怖い顔にならないように精一杯踊りました。

結局、何度もミスをして練習不足を痛感しましたが、多くのことを学び、良い経験をさせていただいたと感謝しています。ありがとうございました。

(わたなべ ゆり、木曜曙ヶ谷教室)



愛する祖母への贈り物

〈韓 麻木〉

趙寿玉先生の踊りを初めて見た瞬間、私の中で何かがピリピリと感電した衝撃を今でも覚えています。音楽に合わせて先生の身体がゆっくり動き始めるとともに、まわりにある空気がじわじわと変わる。私はただ見てはいただけなのに、一緒にその空間に引きずり込まれるような感覚に陥りました。そして踊っている先生の表情が、弥勒菩薩半跏思惟像のアルカイックスマイルと重なりました。それまでも韓国文化院のイベントなどで、韓国舞踊を見たことは何度もあったのですが、こんなに五感を刺激され、感動を受けたのは先生の踊りが初めてでした。もともと大げさにいいますと、魂を驚掴みにされたような気持ちになったのです。先生とお会いしてから2年が経ちましたが、その時の不思議な感覚はずっと私の心の中に残っています。

そして先生との出会いから一年後、どうしても先生の踊りが忘れられず、できるかわからないけど自分も踊ってみたいという気持ちからチュムパンの門を叩いたのです。しかし始めたばかりの頃は先生のおしやっていたことがさっぱりわからず、手足も思うように動かせず、半年間は絶望的な気持ち



でいつばいでした。しかも仕事でなかなか通えない時期もあり、一生懸命覚えないのに行けない焦りと、レッスンを休んでしまう申し訳なさで、ついには教室に行きたくないという気持ちになったことさえありました。しかしそんな時に支えてくださったのは、林鮮玉オンニをはじめとする諸先輩方で

かっついていない私ですし、相変わらず熱心に通っている生徒とは言えません。この1年の間でチュムパンはとても大きな存在になりました。踊る楽しさ、何かを熱心に続ける大切さを教えてくださった寿玉先生、先輩オンニたちにはいつも感謝の気持ちでいつばいです。そして最後に個人的なことを書かせていただくことをご許しください。今年に入つてすぐ、最愛の祖母が亡くなりました。在日コリアン1世として想像も及ばないほど苦労をしたであろう祖母は、いつも明るく仕事熱心で家族を心から愛する尊敬すべき人物でした。陽気な性格だったので、チュエサや結婚式など親戚が集まる席では、特にオツケチュムを踊り、その姿がとてもキョートだったのを覚えています。もしかしたらそんな祖母の踊りが今の私の原点になっているのかもしれない。そして亡くなる二カ月前、私は祖母の前でノドウルカンピョン(ノドウルの河辺)を踊ることができました。すでに体の具合は悪い状態でしたが、私と一緒に楽しそうにノドウルカンピョンの歌を口ずさみ、チャンドンに合せて踊ってくれました。祖母との最後がそんな楽しい思い出になったのは、ひとえにチュムパンのおかげです。本当にありがとうございました。(かん あさき、土曜入門者教室)

活動報告

◎2009年9月11日(金)
蓮華升麻 韓国伝統音楽舞踊公演に出演
ゴールデン街劇場(新宿)にて

◎2009年9月28日(月)29(火)30日(水)
APPAN '09 横浜に出演
横浜関内ホール・小ホールにて

◎2009年10月3日(土)
《2万人の朝鮮人戦争犠牲者の名簿供養》
追悼演舞公演「千秋之慰(チョンチュチウイ)」に出演
国平寺(東京・小平市)にて

◎2009年11月3日(火・祝)
椿座公演「花」に出演
久良岐能舞台(神奈川・磯子)にて

◎2009年11月5日(木)
LaLaTV ドラマ「ファン・ジニ」
放送記念 韓国舞踊公演に出演
川崎市国際交流センターにて

◎2009年12月5日(土)
武蔵野の冬(キョウル)
「韓国(からくに)の風・バラム」に出演
武蔵野スウィングホール(東京・武蔵野市)にて

◎2009年12月14日(月)
新潟港追悼集会「あの日を…忘れない」に参加
新潟港(新潟市)にて

◎2009年12月19日(土)
おさらい会
榎木町地域センター(新宿)にて

◎2009年12月20日(日)
民族伝統藝術公演「風流房」に出演
野方区民ホール(東京都・中野区)にて

◎2010年1月23日(土)
高麗博物館の文化講座2010
「手を広げ・鳥になり・魂を天に運ぶかのように」に出演
高麗博物館(新宿)にて

今後の予定

◎7月23日~26日
初心者のためのワークショップ
趙寿玉チュムパンスタジオ(新宿)にて

◎8月8日
BOAT-以倉いずみへ
みずのそら(西荻窪)にて

◎10月9日
白い闇
ギャラリー悠玄(銀座)にて

◎11月5日
サルブリ
草月ホール(赤坂)にて